

## 災害救助法適用を受け 関係機関と連携し除排雪

1月21日からの大雪により、1月29日付で本市に災害救助法が適用されました。

市ではこれを受け、屋根雪による倒壊のおそれがある住家や、玄関周辺の積雪により出入りが困難な世帯のうち、自力での対応が難しい世帯への除雪支援を行いました。



道路脇に堆積した雪の影響で車線が減少し渋滞が発生



2軒ほど雪が積もった歩道

### 災害級の大雪 支え合いで乗り越える

①木造中学校の生徒4人と木造高校野球部員7人が、市社会福祉協議会職員とともに、除雪ボランティアを行いました。生徒たちは3グループに分かれ、木造地区の6軒の住家を訪問。建物周辺に堆積した雪の除去や生活通路の確保を行いました。

参加した木造高校2年の須郷秀人さんは「雪かきは大変だったけど、きれいに片付けることができ、心もスッキリした。困っている方の力になりたいので、機会があればまた参加したい」と元気に話しました。

②市では、断続的な降雪による市内の状況を総合的に判断し、市民生活に大きな影響が及ばないように、1月30日に市豪雪対策本部を設置し対策を強化しました。

この日は数班に分かれて対象世帯を訪問。職員らはスコップやスノーダンプを手に、玄関から道路までの生活通路を確保するとともに、屋根からの落雪や建物周辺に堆積した雪の除雪作業を行いました。

③航空自衛隊車力分屯基地の隊員の有志8人が、車力地区にある高齢者住宅を訪れ、除雪ボランティアを行いました。この日、隊員はスコップやスノーダンプ、除雪機を用いて、玄関から通路までの生活道を確認しました。

小林丈人基地司令は、「ありがとうと言ってもらえて、疲れが吹っ飛ぶくらいのやりがいがありました。引き続き地域との共存共栄として、積極的に地域に貢献していきたい」と話しました。

隊員たちはこのあと、車力地区の別の住家1軒と、稲垣地区にある住家1軒の除雪作業も行いました。



## 節目の40回 つがる市くらしの工夫展



2/6  
松の館

主催グループによるスコップ三味線

会場の展示コーナーには、市の農産物を使った「わが家の味自慢」をはじめ、農作業衣、稲わら工芸品、絵画や書道など多彩な作品が並びました。このほか、地元農産加工品の販売コーナーなども設けられ、開催を心待ちにしていた多くの来場者でにぎわいました。

また、ステージでは主催グループの女性たちによるスコップ三味線や津軽伝統人形芝居「金多豆蔵（きんたまためじょ）」も上演され、会場からは大きな拍手と笑いが起こっていました。

市内の女性団体や生活改善グループが、日々のくらしの知恵を生かしたアイデア料理や手芸品などを披露する「第40回つがる市くらしの工夫展」が開催されました。高齢化などを理由に、長年親しまれてきた本展は、節目の40回となる今年が最後の開催となりました。

開催に先立ち、主催の市生活改善グループ連絡協議会の中村嘉子会長は「長い間地域の皆さんに支えていただきました。培ってきたアイデアや工夫を、次の世代へ伝えていく活動は今後も続けていきたい」とあいさつしました。



人気を集めた「わが家の味自慢」コーナー

## 料理家・長内さんが考案 森田小でお披露目



2/17  
森田小

市産食材のおいしさを実感する子どもたち

森田小3年の野呂昊叶さんは「ごぼうのカリカリと、豚肉のじゅわっとした感じがよかった。りんごの風味もしておいしかった」と笑顔で話しました。

これまで給食メニューを考えたことはなかったという長内さんは、「栄養士や地元の親御さんにもリサーチしながら考案しました。自分が考案したメニューを『おいしい』と言って食べてくれて何よりです」と喜びを語りました。

新メニューは全部で3品で、残る2品は来年度から順次提供される予定です。

市では、市内の子どもたちに地元農産物への愛着心を育んでもらうとともに、地域の魅力を改めて感じてもらうことを目的として、つがるブランド農産物を活用した学校給食の新メニューを開発しました。考案したのは、東京と弘前の2拠点で活動している料理家の長内美補子さん（五所川原市出身）です。

この日は、森田地区の小中学校で新メニューのお披露目が行われました。



この日提供された給食メニューの「豚肉とごぼうの甘辛だれ(右)」